

私たちは生きていく中でどのくらい当たり前と感じているのでしょうか。人によりますが言われてみると当たり前と感じていることがたくさんあることに気がつきます。今回の聖書を読んでみるとイエスキリストは群集が追いかけてきたのを見て、羊飼いのいない羊のようであるのを深くあわれみ」と記されています。私たちは人がついてくるという状況を見て、このように思うでしょうか。イエスキリストのように思えるでしょうか。イエスキリストは私たちの当たり前では考えられないような生き方をしていました。私たちは主を見上げて歩んでいるのですが、それも当たり前になってしまう可能性があるため注意しなければなりません。反対に今までできていたことができなくなる、すなわち当たり前でできていたこと、していたことができなくなるといらいらしてしまいます。そういう状況におちいると、人はそこから以前のやり方を用いようとしてしまいます。今回、私たちはそういう中からでも新しい方法を見出していく必要があります。今回の聖書箇所は「5つのパンと2匹の魚」（マルコ6：34～）です。4つの福音書に共通する数少ない記事の1つです。当時の人々とすればとても驚くような奇跡です。この奇跡を生んだのは小さな子どもの捧げ物でした。私たちもイエス様に出会い、自分の持てるものは小さいかもしれないけれど、捧げて行く時、奇跡が起こり、多くの人を満した上に有り余るほどの祝福を注いでくださるのです。私たちは聖書に従っていこうと思います。しかしそれを妨げるのが敵である悪魔のすることです。悪魔の方法はしようとするに対して疑いをかけてきます。「…それは本当に神さまからの導きなのか」「…あなたには無理だよ」などなど様々です。その時、私たちはどのようにするべきでしょうか。この言葉に惑わされないようにしなければなりません。この時、イエスの言葉に対して弟子たちはどのようにしたのか。群集も男が5000人と書いてありますから、女や子どもを入れると15000人程度にはなったのではないかと思います。その人々を前にして、近くの村へ行かせるなどの群集を解散しないとどうしようもない状況ですと話していました。イエスは弟子たちの当り前の考え方とは全く違う答えをしました。そしてイエスの前にもってきた「5つのパンを2匹の魚」を通して奇跡を起こしていくのです。実際にどのように奇跡が行われたのかは書いてありません。しかし私たちの持っている物を捧げた時に奇跡がおきました。私たちは無から有を生み出すことのできる神を信じ捧げていきましょう。この奇跡を通して教えていることは、私たちが先に受けた恵みを隣の人に分けていくことです。これが福音の原点です。人から蔑まれていようと、自己卑下していたとしても関係ありません。私たちは受けたものを分けていくことをしていきましょう。今までの当り前や伝統も必要ありません。それを壊して新しい福音の生き様を教えてください。それは今までのスタンダードを捨てることから始まります。イエスの生涯を見てみると常識や標準というスタンダードを壊しています。受胎告知、処女から生まれる、羊飼いの知らせ、異邦人の博士への星の導き、5歳で神殿で教える、神殿での一掃、取税人ザアカイの友達となる、無罪での十字架刑…しかしその生涯は多くの希望をもたらしていききました。（コロサイ2：12～19）私たちは救われた者として周りの人々をつまずかせるような、批判されるようなことをしてはいけなと言われていました。私たちが当り前のようにしていることでも、イエスが見たら本当に良い事なのか考えなくてははいけません。そして良い事をするときも当り前と思ってやっているのであれば、全く意味がありません。私たちは段々とクリスチャンとしての歩み、教会での行動などもすべて当り前の行動しないとすっきりしなくなってしまう。これが危険なのです。聖書では「神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。（コロ2：15）」とあります。私たちの当り前の行動を促す悪魔を捕虜して、私たちの凱旋の行列に加えているのであって、悪魔の誘惑に陥っている状況ではないのです。大事なのは、神と共にいるという信仰です。私たちの当り前の行動の中には矛盾していることや間違っただけの中にあるものがあります。そこで私たちは人に合わせる生き方ではなく、神様に造られたことを知り、神のために生きていきましょう。私たちが互いを認め合い、助け合う生き方をしていけば、自然と多くの人々が私たちについてくるのです。ですから私たちの行動が批判されるようなことをはしてはいけません。神に知恵を求め、知恵によって行動するのはなぜでしょうか。それは私たちが神のためにしようと思うことを多くの人を巻き込みながら成し遂げていくためです。そのために**①あなたの姿を知る必要があります**。神さまの計画した本来の姿を知る必要があるのです。神さまが非常によいと言われた本当の姿を考えなければなりません。私たちが自分の姿を知らないと隣人の関係が歪んだものとなってしまいます。そして**②あなたは大勢に負けていないでしょうか**。私たちは人の振り見てわが身を直せという言葉を聞いたりしながら、世間体を気にしたりするものです。自分の意見というものを極力言わずにいるようにしてしまいます。しかし私たちは自分の行動はイエスさまに聞くしかないので。私たちは今までの生き方に負けると罪を犯してしまうのです。周りからの言葉に流されていきるのではなく、周りからの言葉を受け入れながら、個性は活かしつつ生活することが大切なのです。それぞれの個性を認めつつ、互いに徳を高め合いながら一緒に主の家を築いていきましょう。**③あなたのすべきことは何でしょうか**。私たちはどこへ向かって進んでいるのでしょうか。それがないと私たちは無意味な生活をするようになってしまいます。何をやるのかを忘れてしまっただけでは何もできません。今年の目標、抱負も同様です。12月31日まで覚えておかななくては来年2014年にはつながりません。神さまは私たちを通してこの地に祝福をもたらそうとしています。アドナイ・イルエ、主の山には備えがあるように、神さまの祝福はすでに準備されています。主と共に歩み、神の前に正しいことをしていきましょう。そのためにも私たちの目的を忘れず、悪魔からの妨害によって狂わされることなく、どのように歩むべきなのかをはっきりとさせながら進んでいきましょう。（要約者：平澤一浩）